

学校名	静岡市立大谷小学校
担当教員名	

活動のテーマ	自分事として考える防災学習
主な教科領域等	教科領域（ 教科、総合的な学習 ）
アプローチ	※該当するものに□をつけてください（複数可） 地域連携 避難訓練・避難所運営 専門家の活用 体験学習 学校間・地域間交流 教科連携 地域発信 カリキュラム開発
活動に参加した児童生徒数	（ 6 学年 3 6 0 人）（複数可）
活動に携わった教員数	（ 2 2 ）人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	（ 2 7 8 ）人 【保護者・地域住民・その他（ 市役所職員 ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に□をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2 0 2 4 年 4 月 1 日 ～ 西暦 2 0 2 5 年 3 月 3 1 日
想定した災害	※該当するものに□をつけてください（複数可）。 地震 津波 台風 洪水 河川氾濫 土砂 その他（

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

- ① 津波や河川氾濫などのメカニズムや自然災害に関する正しい知識を習得し、いつ・どこで災害に遭っても適切な判断と主体的な避難行動ができるよう実践的な能力を養う。（自助）
- ② 家庭や地域と連携して、災害発生前にどのように備え、発生時には他者とどのように協力していくべきか考え、実践することができる能力を養う。（共助）
- ③ 地域の防災訓練への参加への意識など、安全なまちづくりへ参画する態度を養う。（公助）

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

- ① 各学年での防災学習
- ② 防災学習計画書の見直し、作成（資料添付）
- ③ 避難訓練後の校長講話（スライド）と防災授業

3) 9 月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- ・これまでの防災学習計画をしずおか学（防災編）、気仙沼市学習シートや大分県の佐伯市の防災学習計画を参考に、発達段階に応じた防災学習計画に見直し、新たに作成した。
- ・職員室前に防災コーナーを設け、地域の海拔図や各家庭の津波浸水予想マップを見える化。（災害が起きたときの引き渡し地域や留め置き地域を明確にしたもの）
- ・図書館に防災コーナーを設け、子供たちが授業時間や休み時間に学べる環境を整えた。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・防災学習計画書の見直しは、教師が発達段階に応じて系統的に指導することや、年間計画の中でどの時期に指導するかの見通しをもつ意味でも大切である。
- ・さまざまな想定の下で避難訓練を行い、対応力を高める。（けが人がいる場合、放送が使えない場合など）

②児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

- ・避難訓練後の校長講話（スライド）
 子供たちは、能登地震や東日本大震災の写真から、被害の大きさを感じるとともに自然災害の脅威を学んだ。
 地元で起こった過去の記録より、自分事として地震への備えを考える力が付いた。日頃の備えや身を守る方法を改めて確認し訓練に参加した。
- ・各学年の取組
 3 年生 防災かるた
 災害ごとにどんな状況が起こり、その場合どんな行動をとったらよいかを判断するカードを選択する活動を通して、

さまざまな災害時の危険予知能力や状況判断力を高めることができた。（親子で実施）



4年生

①防災講座（やらざあ駿河）

災害時に必要な非常食を選択したり、災害時に必要な水をリヤカーで運んだりする体験を通して、非常時の備えに対する意識を高めることができた。



②国語（もしものときに備えて）

本単元では、自分の考えを明確に伝えるため「理由」や「事例」との関係を明確にし、書き表し方を工夫する力を育成する。また、書いた文章を読み合い感想や意見を伝え合う活動を取り入れ、その中で書こうとしたことが明確に表現されているところを見つける力を育成する。文章を読み合う際には、書き終えた文章だけでなく、書く過程で作成した構成メモ等も活用し、構成を確認するようにする。文章の構成・表現力を付けると共に災害へ備える力を養うことができた。

5年生 防災すごろく（考案者の弁護士・防災士永野 海氏によるワークショップ）

学校の校庭に自分がいたときに長い揺れの地震が発生したという想定のもと、グループで話し合い避難場所と経路を決めたり、逃げた場所や道のりが安全であったかを確認したり、安全な避難をするためにアイテムと避難経路を決める防災すごろくを通して、災害時の判断力を高める。



6年生 防災マップ講座（静岡市駿河区 地域総務課）

地域にある標識や施設が防災の上でどんな役割をしているか区役所職員から学ぶことで、登下校時や家庭での生活における避難意識を高めることができた。



④ 教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

- ・地震発生後のフローチャートを職員会議で共有し、各自がどのような動きをするか確認した。（教師）
- ・大規模災害を想定して、保護者への引き渡し訓練を継続的、計画的に行うことは危機意識を持続する意味で大切である。（保護者）
- ・子供たちは学校で災害が起きた場合には高台にある地域の公園へ避難したり、家庭で災害が起こり避難する場合を想定した訓練に参加したりすることで地域との連携を図っている。（地域）
- ・防災教員研修
防災士による地震・津波の発災についての防災講和。教員も子供と一緒に講話を聴き、知識を深めることができた。教員が知識を深めることで防災教育の充実を図ることができた。



5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

総合的な学習の時間で防災学習について20時間の計画はあるものの、実質的な学習内容はその年の学年任せになっていたものを全学年が系統的に学ぶことができるように、しずおか学（防災編）、気仙沼学習シート、大分県教育委員会発行の防災教育実践事例集を参考に本校の防災教育計画書の見直しをした。

6) 実践から得られた教訓や課題と、次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・防災計画に沿って確実に学習を進め、地震、津波についての関心を高め、日頃から自分事として危機意識をもって生活する能力を身に付けたい。
- ・外部講師の活用や資料（しずおか学（防災編））を効果的に活用し、自分事として捉える学習を進める。
- ・図書室に防災コーナーを設け、子供たちの防災意識を高める。

7) その他（※特にあれば記述）

※写真や画像、補足資料などがある場合は添付してください。写真は別途元データ（JPEG）もご提供ください。

- ・大谷小防災学習計画書

大谷小学校防災教育計画書

1 はじめに

大谷小の立地する静岡市南部は、かねてから南海トラフ大地震の発生の危険性が明らかにされている。また、大谷地区には大地震やこれに伴う津波、液状化以外にも、海岸に近いことから台風による高潮や水害、土砂災害警戒地域、富士山の噴火による降灰の危険性も含め、多様な災害に対する不断の対策が求められている。

加えて、静岡市は南に駿河湾、北に南アルプス、東西に大規模な河川が位置し、これらに囲まれた地理的条件から、広域に渡る大規模災害時には他の地域からの援助が得られなくなる危険性がある。そのため、災害を未然に防ぐとともに、日頃からの備えにより被害を減らすことが極めて重要である。

こうした防災・減災の実現のため、子供たちが「自助（自分の身は自分で守る）、共助（地域の住民や事業者が互いに助け合い、守り合う）、公助（市、県、国からの支援を計画的に分け合う）」についての力を付けることが大切である。

そこで、令和6年度の「アクサ・ユネスコ協会減災教育プログラム」に沿って、宮城県気仙沼市の取組みを参考に、防災教育全体計画を整理することとした。総合的な学習の時間を中心に行っている防災教育を、他教科との横の繋がりや避難訓練・他学年との縦の関わりを明確化する。また、「しずおか学（防災編）」をどの学年で活用すべきか、外部団体や外部機関をいつ活用するのかについても整理し、どこにいても身を守る防災意識と判断力・行動力の育成を6年間育んでいくこととする。

2 防災教育全体計画

【学校教育目標】 「切り拓け たくましく 心ゆたかに」

【重点目標】 「なりたい自分になる ～仲間と共に～」

外部とのつながり ・アクサ・ユネスコ協会減災教育プログラム（R6） ・静岡地方気象台 ・かわなび（静岡市治水交流資料館） ・災害支援団体「やらざあ駿河」 ・静岡大学「防災検定ソナクエ」	めざす子どもの姿 ・主体的に取り組む人 ・自立と自律の心をもつ人 ・道徳性豊かな人 （南中グループ）	社会・地域・学校の現状 ・南海トラフ巨大地震の震源域、津波、土砂崩れ ・校区の特性（海に近い） ・どこにいても身を守る防災意識と判断力・行動力の育成
---	--	---

防災教育の目的

①地震、津波や河川氾濫などのメカニズムや自然災害に関する正しい知識を習得し、いつ・ど

こで災害に遭っても適切な判断と主体的な避難行動ができるよう実践的な能力を養う。
（自助）

②家庭や地域と連携して、災害発生前にどのように備え、発生時には他者とどのように協力していくべきか考え、実践することができる能力を養う。
（共助）

③地域の防災訓練への参加への意識など、安全なまちづくりへ参画する態度を養う。（公助）

<柱となる活動>

低学年	中学年	高学年
（共通）あぶトレ 非常時の身の守り方	（共通）あぶトレ 防災検定ソナクエ	（共通）スマホ安全教室 （災害時のデマについて）
1年 学校内避難通路確認 非常食バッグの点検 2年 学校や地域の避難経路、 避難場所確認	3年 非常食バッグづくり 防災カルタ 4年 かわなび見学 静岡県防災センター見学	5年 津波避難すごろく 救命救急講習 6年 災害図上訓練DIG 防災マップ講座

<教育課程における位置づけ>

低学年		中学年		高学年	
教科	単元	教科	単元	教科	単元
生活科	1年がっこうだいすき 2年どきどきわくわく まちたんけん	社会科	3年わたしたちの街 4年地震や津波から命を守る	社会科	5年 災害がおきたら 6年 暮らしと政治
道徳	1年みんなでまもろう みんないきている 2年どうしてきまりがあるのかな	学級活動	3年 地震から身を守ろう 4年 避難の仕方を覚えよう	理科	5年 台風と天気流れる水 6年 大地のつくり 地震による大地の変化
学級活動	1年 じしんからみをまもろう・ぼうさいしよくのかくにんをしよう 2年 火事や地しんのひなんのしかた	総合	防災学習(20H) 3年 命を守ることにについて考えよう 4年 地域の防災について考えよう	総合	防災学習(20H) 5年 家庭や学校の防災安全リーダーになろう 6年 学校や地域の防災安全リーダーになろう
		国語	4年もしものときに備えよう	保健	けがの防止・けがの手当
学校行事	避難訓練	学校行事	避難訓練	学校行事	避難訓練

3 各学年の学習の流れ

	知る	やってみる・試す	深める・高める
低学年	生活科 学級活動 道徳	学校行事 生活科	生活科 道徳 学級活動
中学年	総合 社会 道徳	学校行事 社会	総合
高学年	社会 理科 保健	学校行事 学級活動	総合

4 しずおか学（防災編）とのつながり

章	節	ページ	内容	活用学年
1	1 2 3	6 16 26	自然災害を知ろう 阪神淡路大震災・東日本大震災 自然災害の仕組み①地震・津波 自然災害の仕組み②火山・大雨	4年
2	1 2	38 48	静岡市の災害 静岡市の災害の歴史 静岡市で想定される自然災害	3年・4年
3	1 2 3	62 74 82	災害から身を守る 自分自身の命は自分で守る（自助） まわりの人々と連携・協働して支え合う（共助） 国・県・市・役立つ防災グッズ（公助）	3年・4年 5年・6年 3年・4年
4		94	災害が起こったら	6年
5		106	防災体験をしよう	3年・4年
6	1 2	120 130	未来を見つめて 防災マップをつくろう 地域防災・私ができること	5年・6年